

# 児童生徒等の 健康診断 マニュアル

平成27年度  
改訂

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 監修

公益財団法人 日本学校保健会

[http://gakkohoken.jp/book/ebook/ebook\\_H270030/index\\_f.html](http://gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H270030/index_f.html)

## 4 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態

### 検査の意義

成長発達の過程にある児童生徒等の脊柱・胸郭・四肢・骨・関節の疾病及び異常を早期に発見することにより、心身の成長・発達と生涯にわたる健康づくりに結び付けられる。

### 検査の実際

#### 準備

家庭における観察の結果、学校に提出される保健調査票の整形外科のチェックがある項目を整理する。これに加え、日常の健康観察の情報を整理する。可能であるならば、養護教諭は、体育やクラブ活動の担当者と連携し、保健調査票においてチェックがある項目の観察を健康診断前に実施し、情報を整理する。

#### 方法

- 1 養護教諭は保健調査票、学校での日常の健康観察等の整理された情報を、健康診断の際に学校医に提供する。
- 2 提供された保健調査等の情報を参考に、側わん症の検査を行う。四肢の状態等については、入室時の姿勢・歩行の状態に注意を払い、伝えられた保健調査でのチェックの有無等により、必要に応じて、留意事項を参考に、検査を行う。

#### 判定

学校医による視触診等で、学業を行うのに支障があるような疾病・異常等が疑われる場合には、医療機関で検査を受けるよう勧め、専門医の判定を待つ。

## 事後措置

家庭での保健調査票及び学校での健康観察から総合的に判断し、健康診断実施の上、学校医が必要と認めた児童生徒等については、その結果を保護者に連絡し、速やかに整形外科専門医への受診を勧める。専門医の指示内容を保護者から確認する。指示内容はまとめて記載しておき、今後の指導に役立たせる。

## 留意事項

特に重点的に診る場合の検査例を、保健調査票でチェックがついた質問項目例にあわせて以下に記述する。

## 留意事項

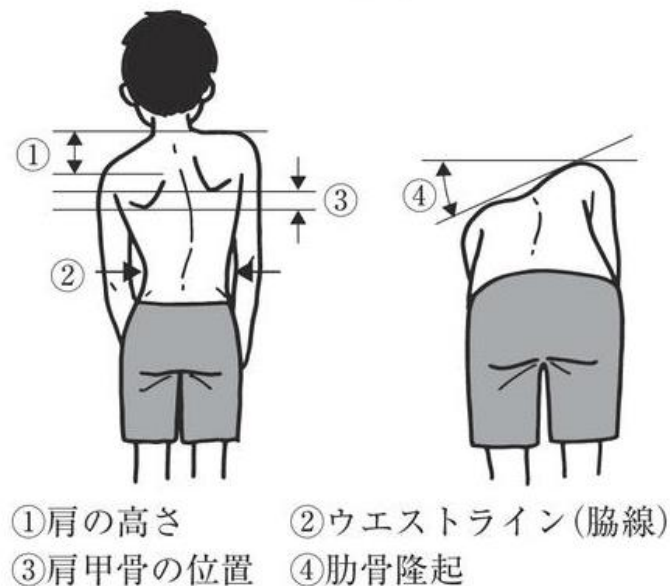
特に重点的に診る場合の検査例を、保健調査票でチェックがついた質問項目例にあわせて以下に記述する。

### 1 背骨が曲がっている。

肩の高さ・肩甲骨の高さや後方への出っ張り・ウエストラインの左右差の有無を確認する。また前屈テストを実施する。

\*前屈テスト：ゆっくり前屈させながら、背中中の肋骨の高さに左右差（肋骨隆起、リブハンプ）があるかどうか、腰椎部の高さに左右差（腰椎隆起、ランバーハンプ）があるかどうか確認する。児童生徒等がリラックスした状態で、両腕を左右差が生じないように下垂させ、両側の手掌を合わせて両足の中央に来るようにすることが大切である。背部の高さが必ず目の高さにくるように前屈させながら、背中中の頭側から腰の部分まで見ていく必要がある。脊柱側弯症等のスクリーニングになる。

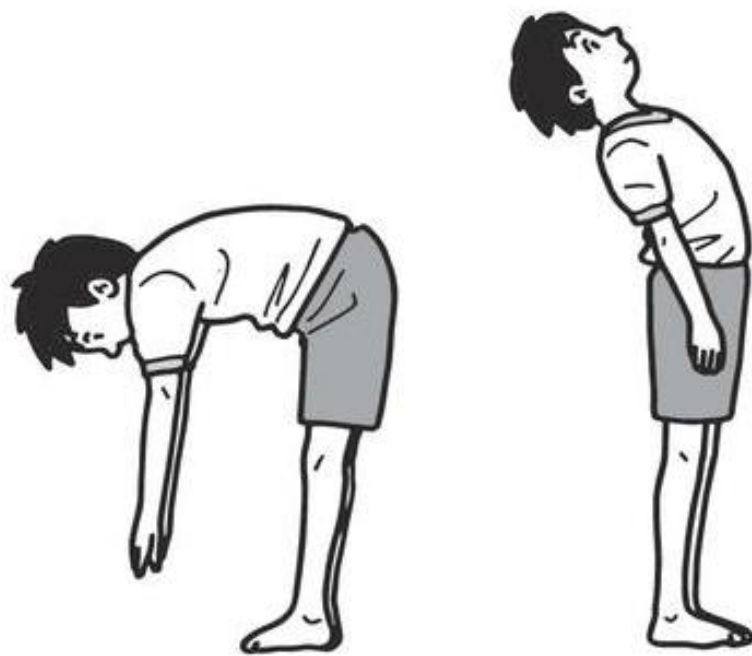
図1 検査例1



2 腰を曲げたり、反らしたりすると痛みがある。

かがんだり（屈曲）、反らしたり（伸展）したときに、腰に痛みが出るか否かをたずね、後ろに反らせることにより腰痛が誘発されるかどうか確認する。脊椎分離症等のスクリーニングとなる。

図2 検査例2



屈曲時の痛み

伸展時の痛み



### 3 上肢に痛みや動きの悪いところがある。

関節の可動性は学校医が児童生徒等に関節を動かすように指示する、若しくは学校医が実際に関節を動かすことによって検査する。痛みは、特に運動終末時の痛みの有無についても注意するとよい。

#### ① 肩関節に痛みや動きが悪いところがある。

肩関節の可動性は側面より観察して、児童生徒等の両肘関節を伸展させた状態で上肢を前方挙上させて異常の有無を検査する。上腕が耳につくか否かに注意する。野球肩等のスクリーニングとなる。

#### ② 肘関節に痛みや動きの悪いところがある。

肘関節の可動性は側面より観察して、児童生徒等の両前腕を回外させて、手掌を上に向けた状態で肘関節を屈曲・伸展させて異常の有無を検査する。特に伸展では上肢を肩関節の高さまで挙上させて検査することにより、わずかな伸展角度の減少を確認できる。完全に伸展できるか、左右差がないかを観察する。また屈曲では手指が肩につくか否かに注意する。前腕の回内及び回外を観察する。例えば、野球肘では、腕を伸ばすと、片方だけまっすぐに伸びなかったり、最後まで曲げられなかったりする。

図3 検査例3



両腕を伸ばすと、片方だけまっすぐに伸びない。

#### 4 膝に痛みや動きの悪いところがある。

膝のお皿の下の骨（脛骨粗面）の周囲を痛がる場合（腫れることもある）は、オスグッド病を疑う。成長期においては関節軟骨が成人より豊富かつ未熟であり、外傷や繰り返される負荷によって障害を受けやすい。また、神経が軟骨にはないために発症早期では痛みがなく、動きが悪い、ひっかかるなどの症状だけの場合もあり、曲げ伸ばしをしてうまく曲げられない場合は注意が必要である。

#### 5 片脚立ちが5秒以上できない。しゃがみこみができない。

立つ、歩行、しゃがむなどの動作がぎこちないか、また左右それぞれに片脚立ちするとふらつかないか、骨盤が傾いたり、背骨が曲がったりしないかを観察する。この際、転倒しないように注意して実施する。大腿骨頭すべり症、ペルテス病、発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）等のスクリーニングとなる。



片脚立ちすると、ふらつく（左右ともにチェック）。

図4 検査例4



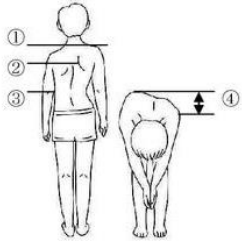
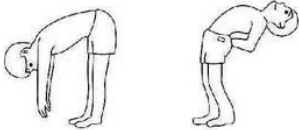
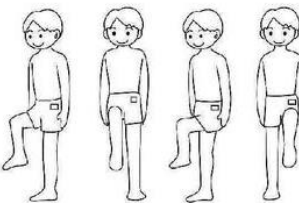
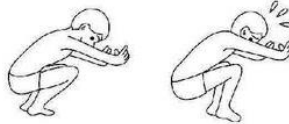
ふらつく。後ろに転ぶ。しゃがむと痛みがある。

### 運動器検診保健調査票

年 組 番 名前 男・女

※保護者の方へ：太枠の中のみ記入してください。当てはまる番号に○を付けてください。

現在取り組んでいるスポーツ（バレエ、ダンス等を含む）： なし あり（ ）

1) 脊柱側弯症…早めの発見を	保護者記入欄	学校医記入欄
	<p>4つのチェックポイント</p> <p>① 両肩の高さに差がある</p> <p>② 両肩甲骨の高さ・位置に差がある</p> <p>③ 左右の脇線の曲がり方に差がある</p> <p>④ 前屈した左右の背面の高さに差がある</p>	<p>① 疑い</p> <p>② 経過観察</p>
2) 次に気が付くことがありましたら、チェックしてください。		
<p>身体をそらしたり、曲げたりしたときに腰に痛みが出ませんか。</p> 	<p>【前屈】</p> <p>① 痛む</p> <p>② 痛まない</p> <p>【後屈】</p> <p>① 痛む</p> <p>② 痛まない</p>	<p>【異常所見】</p> <p>前屈</p> <p>① あり</p> <p>② 疑い</p> <p>後屈</p> <p>① あり</p> <p>② 疑い</p>
<p>片脚立ち（左右交互にやって下さい）</p> <p>片脚立ちすると体が傾いたり、ふらついたりしませんか</p> 	<p>【左脚立ち】</p> <p>① 立てない</p> <p>② ふらつく</p> <p>③ 異常なし</p> <p>【右脚立ち】</p> <p>① 立てない</p> <p>② ふらつく</p> <p>③ 異常なし</p>	<p>【異常所見】</p> <p>左</p> <p>① あり</p> <p>② 疑い</p> <p>右</p> <p>① あり</p> <p>② 疑い</p>
<p>しゃがみこみ</p> <p>足の裏を全部床につけて完全にしゃがめますか。</p> 	<p>① しゃがめる</p> <p>② しゃがめない</p>	<p>【異常所見】</p> <p>① あり</p> <p>② 疑い</p>



<p>手のひらを上に向けて腕を伸ばした時 完全に伸びない、完全に曲がらない（指が肩につかない）ことはありますか</p> 	<p>左肘 ① 完全に伸びない ② 完全に曲がらない ③ 異常なし</p> <p>右肘 ① 完全に伸びない ② 完全に曲がらない ③ 異常なし</p>	<p>左肘 ① 屈曲異常 ② 伸展異常 ③ 内反あり ④ 外反あり</p> <p>右肘 ① 屈曲異常 ② 伸展異常 ③ 内反あり ④ 外反あり</p>
<p>バンザイした時、両腕が耳につきますか</p> 	<p>左腕 ① つかない ② つく</p> <p>右腕 ① つかない ② つく</p>	<p>左腕 ① つかない ② つく</p> <p>右腕 ① つかない ② つく</p>
<p>3) からだのどこかに痛いところや気になるところはありませんか。</p>		
<p>骨・関節・筋肉などについて、症状のある部位に○をつけ、その症状について具体的に書いてください。</p> 	<p>【症状】</p>	<p>【所見】</p>
<p>4) その他からだや手・足で気になることがありましたら、自由にお書きください。</p>		
<p>保護者署名</p>		
<p>学校医署名</p>		

※本書をコピーして学校健診に使用されることは問題ありませんが、販売等はしないでください。  
 ※本書を研究発表等に使用する場合には千葉県医師会に御一報ください。